



親柱に旧橋のデザイン

⑭ 伊那路橋

箕輪町

全長約89メートルのコンクリート橋が、緩やかなアーチを描いて箕輪町の中箕輪と東箕輪を結ぶ。彫刻が施された親柱が豪華だった旧橋の雰囲気を漂わせていた。江戸中期には架橋されていて、中馬輸送を支える街道の重要な橋りょうだった。かつては「大橋」と呼

伊那谷遺産 第1部

ばれ、人々が盛んに往来したという。本格的な木橋が整備されたのは明治初期。1933年に架け替えられたコンクリート橋は全長60メートル、幅5.5メートルで、欄干などに組み込まれた立体的な装飾が芸術的だった。94年に現在の橋が竣工。橋長は1.5倍に、幅は3倍以上広くなった。



QRコードから
スマートフォン
で記事を見たい
人はここに
タップしてください

・片桐美登
(文・倉田高志、絵)

旧橋のデザインを受け継いだ親柱を見ると昔を思い出さずという人もいます。近くに住む大槻東洋さん(70)は「昭和30年頃までは川で遊ぶ。ウグイやウナギなんかもいた」と懐かしそうに話した。

毎週火曜日掲載

平成25年10月22日 1面

長野日報 朝・夕